

(英語版)

(アラビア語版)

(目次)

見果てぬ平和 ― 中東の戦後75年 (百九十四)

エピローグ (六)

百九十四 増え続ける中東の難民(二―三)



シリア紛争で国外に逃れたシリア難民は約410万人、国内で避難生活を送っている人々は760万人に上ると言われる。実にシリアの総人口の約半数であり、世界の避難民総数の五分の一を占める規模に達している。シリアの内戦が泥沼状態になると共に国内避難民への救援物資は滞り、満足な栄養や医療が行き渡らなくなった。彼らはトルコ、レバノン、ヨルダン等の周辺国の難民キャンプを目指したが、キャンプ自体がすでに飽和状態である。

そこで彼らは陸路伝いに徒歩で西ヨーロッパ、中でも移民に優しいとされるドイツを目指す。シリア難民の多くは都会暮らしの中流階級出身である。彼らは故郷の街にいるころから西ヨーロッパの平和で豊かな生活を熟知しており、一方「イスラーム国」(IS)の野蛮で非文明的な行状をインターネットで見ると、ISが自分たちの街を支配した場合の恐怖感に怯えた。だから彼らはISの足音が近づくと、一切合財の家財道具を投げ売りしてトルコに逃げ延び、そこから西ヨーロッパを目指したのである。

(続く)

荒葉 一也

E-mail: [Arehakaruzuyal@gmail.com](mailto:Arehakaruzuyal@gmail.com)